

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃ うりんこ 株式会社 うりんこ	団体ウェブサイトURL	www.urinko.jp
代表者職・氏名	代表取締役 児玉 俊介		
制作団体所在地	〒 465-0018 愛知県名古屋市中区八前一丁目112番地	最寄り駅(バス停)	宮根
電話番号	052-772-1882		
ふりがな 公演団体名	げきだんうりんこ 劇団うりんこ	団体ウェブサイトURL	www.urinko.jp
代表者職・氏名	代表取締役 児玉 俊介		
公演団体所在地	〒 465-0018 愛知県名古屋市中区八前一丁目112番地	最寄り駅(バス停)	宮根
制作団体 設立年月	1973年5月		
制作団体組織	役職員 代表取締役 児玉俊介 運営委員長 佐々木政司 務局長 西尾ひろみ	団体構成員及び加入条件等 事 団員構成員34名(演技部17名、制作部14名、育休3名)、加入条件 一年間の付属演劇研究所卒業と入団試験での合格	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	西尾ひろみ 西尾栄儀
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	中村敬子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	syousuke.urinko@gmail.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>昭和48年 劇団うりんこ創立。昭和51年 株式会社 劇団うりんこ設立。 昭和54年 劇団うりんこ付属演劇研究所創立。 昭和55年 名古屋市芸術奨励賞 団体賞受賞。平成 4年 愛知県芸術文化選賞受賞。 平成 7年 (社)日本劇団協議会入会。 平成13～15年 文化庁芸術団体重点支援事業。 平成18年 児童福祉文化賞「だってだっておばあさん」 平成23年 名古屋市文化振興事業団『第27回 芸術創造賞』受賞 平成24年 児童福祉文化賞「ぼくってヒーロー？」 平成25年 児童福祉文化賞「ねむるまち」 平成29年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「ともだちやーあいつもともだちー」 平成30年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「夜明けの落語」 令和2年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「きみがしらないひみつの3人」 令和3年2月 法人名を、株式会社うりんこ に変更</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>令和2年度:合計12作品327回(「小学校宇宙ステーション」56回「こだぬきコロッケ」12回「なんちゃってヒーロー」45回「わたしとわたしぼくとぼく」28回「ともだちやーあいつもともだちー」23回「きみがしらないひみつの三人」34回「クローゼットQ」8回「ダイアルアゴースト」10回「学校ウサギをつかまえろ」50回「キッドナップ・ツアー」15回「はなのき村」25回「海彦と山彦」21回) 令和3年度:合計14作品534回(「小学校は宇宙ステーション」103回「ドン・キホーテ」2回「ともだちやーあいつもともだちー」76回「きみがしらないひみつの三人」68回「なんちゃってヒーロー」106回「わたしとわたし、ぼくとぼく」36回「ダイアル ア ゴースト」10回「罪と罰」2回「クローゼットQ」10回「学校ウサギをつかまえろ」85回「はなのき村」4回「キッドナップ ツアー」9回「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」17回「海彦と山彦」6回) 令和4年度:合計19作品687回(「小学校は宇宙ステーション」122回「なんちゃってヒーロー」89回「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」67回「ともだちやーあいつもともだち」73回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」82回「きみがしらないひみつの三人」99回「大きなカブ?/パーティー」16回「クモばんぼとぎんのくつした」16回「学校ウサギをつかまえろ」6回「クローゼットQ」22回「罪と罰」2回「ダイアル ア ゴースト」6回「わたしとわたし、ぼくとぼく」36回「ドン・キホーテ」4回「大切なあなたへーI need you!」8回「MARIMO」18回「しし丸どっかあん!」17回「うたうしじみ」1回)</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>愛知県立港特別支援学校2008年7月11日 愛知県立安城特別支援学校2009年2月18日 栃木県立那須特別支援学校2016年11月14日(本事業) 愛知県立豊橋特別支援学校2018年11月21日(本事業) 愛知県豊田市立特別支援学校2019年7月5日 大阪府立平野支援学校2021年9月7日(本事業) 三重県立豊学校2023年7月10日(本事業)</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/HvotKw_xamY</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p></p>
<p>PW:</p>	<p></p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団うりんこ】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	ともだちやーあいつもともだちー				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演目:「ともだちやーあいつもともだちー」 原作:内田麟太郎(「ともだちや」「あいつもともだち」「ともだちごっこ」(偕成社)) 脚本・演出:佃典彦 美術:青木拓也 衣装:木場絵里香 音楽:内田アダチ 音響:椎名KANS 振付:下出祐子 公演時間 65 分				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	原作	
	該当事項がある場合	権利者名 内田麟太郎「ともだちや」 「あいつもともだち」「ともだちごっこ」(偕成社)	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済	
演目概要	<p>【あらすじ】 一人ぼっちで寂しがりなキツネは、ある日「ともだちや」を始めました。一時間100円で「ともだち」になってあげる商売です。のぼりを立て大声で「え～、ともだちやで～す。寂しい人はいませんか～？ 友達、一時間100円で～す」と呼びかけます。でも、友達って買えるのかな？ 本当の友達って、どんなんだろう？ 友達と心がすれ違っちゃったら、どうしたらいいんだろう？ ちょっとの勇気で、友達が增えるって幸せだね。「ともだち」との様々な心のやり取りを描いた演劇です。</p> <p>【みどころ】 長年、子どもたちに大人気の絵本「おれたち、ともだち」シリーズの劇化です。低学年も高学年にも共感できる「友達との関わり」を描いており、興味関心を持って楽しく鑑賞できる演劇です。3人の俳優が9役を演じ、友達をめぐる様々な感情や関係の変化を描きます。また、舞台美術の変化や音楽的効果で季節の移り変わりを表現し、観客の想像力を刺激します。キツネやオオカミ、クマ、テン、ヘビなどの動物は、絵本に描かれている姿を忠実に表現しており、見た目にも見応えある演劇です。</p>				
演目選択理由	<p>「テンとけんかしちゃったけど、ごめんね、を自分で言えてたのが 良かったなあ～と思いました。」「この劇を観て、友だちは自分の事をどう思っているのか、気になりました」これは、劇を観た児童の感想です。</p> <p>友達とは、多くの喜びを共有し、苦しさや悲しみを分かち合う存在です。しかし、学校生活において人間関係のトラブルや、人間関係でのストレスを抱える事例も多くみられます。この演目には、子どもたちが普段行っている遊びや、感じていることがたくさん出てきます。友達と一緒に遊ぶ楽しさ、意地悪や、ヤキモチの気持ちも出てきます。低学年から高学年まで、幅広い年齢の児童生徒にとって身近であり、興味深く鑑賞できる演目であることが選択の理由です。この「ともだちやーあいつもともだち」は、平成29年度厚生労働省社会保障審議会の児童福祉文化財特別推薦を受けています。</p>				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【共演の形態】共演の児童生徒は、15人程度(4年生以上)を予定しています。登場人物のキツネが、オオカミの助けを得てヘビと友達になった場面で共演します。俳優と一緒に「だるまさんがころんだ」をアレンジした遊び「だるまさんが〇〇した」を演じます。〇〇の部分では児童生徒が自ら考えて身体表現を行います。台詞も児童生徒のアイデアを活かしてつくり、上演校独自の共演場面を創作します。</p> <p>【体験の形態】上演後、バックステージツアーを実施します。限られた運搬量の演目でありながら、見栄え良い舞台装置にするための工夫や、衣裳の早替えの工夫や、俳優が演技をしながら音響の操作を行うための工夫などを見学してもらいます。舞台裏見学を通して演劇への興味を多方向から持ってもらう事で、舞台芸術に対する興味関心を喚起し、将来の芸術育成や鑑賞能力向上に寄与したいと考えています。</p>				
出演者	佐々木政司、和田幸加、山内庸平				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 3 名	運搬	積載量: 1.15 t		
	スタッフ: 1 名		車長: 4.99 m		
	合計: 4 名		台数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～11時	13時30分～ 14時35分	0分	15時～16時	16時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	10日				
	11月	12月	1月	計	15日	

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	15名
		鑑賞人数目安	250名以下



図①
体育館のフロアに舞台を設置した状態。
体育館の形状や鑑賞人数によって、設置場所を変更する場合があります。
舞台設置に必要な面積
幅約10m×奥行約8m

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



図②
上演の様子
・キツネは、1時間100円で「ともだちや」を始めました。
・三人で「あくしっぽ！」
また明日も遊ぼうな

【公演団体名 劇団うりんこ】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40人(1クラス程度)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>標準:90分</p> <p>【実施形態】 4年生以上、1クラス単位(40名程度)で行います。ワークショップ指導経験者が2名で指導します。公演実施当日にワークショップを行う場合は、ワークショップ指導者1名と出演者でワークショップを行います。共演場面の練習に限らず、“演劇的表現”を楽しむためのワークショップや、子どもたちのコミュニケーション力や表現力向上をはかる活動を実施します。</p> <p>【ワークショップ内容】</p> <p>①ガイダンス ワークショップの目的を児童生徒に伝えます。</p> <p>②導入の活動 アイスブレイクのための活動を行います。ワークショップへの期待を高め、緊張をほぐすために行います。児童生徒になじみの深い「じゃんけん」を使った活動です。</p> <p>③展開の活動① コミュニケーションを楽しむ活動を行います。 ペアで身体表現を楽しむ活動です。(例えば「ナイフとフォーク」) 想像を楽しむ活動を行います(例えば「見えない糸の操り人形」) 小集団で合意形成し、創作活動を行います。(例えば「フリーズフレーム」)</p> <p>休憩(10分)</p> <p>④展開の活動② 共演場面の内容を伝えます。児童生徒のアイデアを活かし、場面内容にあったセリフを創作し、実施校独自の共演場面をつくります。 ともだちになったキツネ・オオカミ・ヘビと一緒に、だるまさんがころんだをして遊ぶ場面での共演です。身体をのびのびと使い遊びを演じます。 共演児童生徒を決めます。 参加共演場面を演じます。</p> <p>⑤まとめ ワークショップのふりかえりを行います。</p>		
ワークショップのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞をより豊かな体験とするために、想像力を育むことを目的とした身体表現活動を行います。 ・ペアでの表現活動や小グループでの創作活動を行うことで、言語によるコミュニケーション(受信と発信)や他者との合意形成の体験を提供します。 ・児童生徒のアイデアを活かした共演場面の創作により、自らのアイデアが共演場面の創作に活かされる体験を通し、発想力を育むと共に自己肯定感や自信を育みます。 <p>子どもたちが演劇を身近に感じ、興味関心をもって公演当日を迎えられるよう留意してワークショップを行います。子どもたちが主体的に楽しく活動できるよう親しみやすく分かりやすい進行に努めます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは公演会場と同じ場所で行います。 ・ワークショップに参加する児童生徒は、動きやすい服装で参加してください。 ・ワークショップ実施前に、ワークショップの狙いや内容について学校側と共有し、ワークショップの円滑な実施のために担当の先生およびワークショップ参加児童生徒の担任の先生との打合せを行います。 ・公演当日にワークショップを行うことも可能です。その場合は、ワークショップ指導者は舞台スタッフを兼任します。 		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団うりんこ

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 【芸術鑑賞機会の充実】 学校における芸術鑑賞実施率は新型コロナウイルス感染症の発生により激減し、いまだに芸術鑑賞行事の実施率は低いままです。また家庭の経済格差の広がりや地域格差の広がりが進み、子どもが芸術に触れる機会は均等とはいえない状況にあります。全ての子どもが芸術を鑑賞する機会を得ることは、国民の芸術鑑賞能力向上をはかる上で欠かせないことと考えます。文化芸術は、多様で寛容な世の中を作り出すために不可欠なものです。また、児童期に優れた芸術に触れることは将来の芸術家の育成に繋がるものと考えます。以上の点から本事業に申請し、芸術鑑賞能力の向上と、文化的な地域格差の解消に寄与したいと考えます。</p> <p>【芸術体験機会の充実】 ワークショップでは、演劇的手法での身体活動や言語活動を通じて、体感的に他者との関わりを学び、他者と協力して課題解決することで得られる喜びや楽しさを体験する事で、コミュニケーション能力の育成に寄与したいと考えます。共演においては参加児童のアイデアを活かし台詞や場面を創作することで児童生徒の発想力の育成を図ります。自分のアイデアが活かされる体験や他者のアイデアを受け入れ体現する事を通し、自己肯定感と自信を育みます。プロの俳優達と共演する体験は、その臨場感や高揚感と共に大きな喜びの体験となり、将来の芸術家育成に繋がる可能性のあるものと考えます。小中学校におけるコミュニケーションワークショップや児童生徒の表現活動支援などで講師経験のある者をワークショップ講師として派遣し、児童生徒の状態や学校の要望を詳細に把握した上で活動計画を立て、よりワークショップの効果を高める努力をし、芸術体験の充実に寄与したいと考えます。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 【効果的に実施するために】 ワークショップ実施前に、児童宛に共演場面の内容を漫画とイラストで書いた手紙を送り、期待と興味を高められるよう工夫します。公演実施の前に公演演目のポスターを複数枚学校へ送り、校内に掲示してもらい、公演への期待を高められるようにします。 公演後に、児童生徒に「お楽しみカード」を配布します。お楽しみカードにはQRコードが付しており、演目独自の限定公開映像を観ることができます。演劇鑑賞後にも持続した楽しみを用意することで、演劇への興味関心の継続を図ります。</p> <p>【円滑に実施するために】 実施校決定後、実施までのタイムスケジュールと実施内容を郵送します。ワークショップの2ヶ月前程に、ワークショップの詳細な内容や準備物、児童生徒への手紙を郵送します。ワークショップ実施に際しては児童の様子や留意しておくことなどを把握するため、担任の先生との打ち合わせ時間を設けます。公演開催の約1ヶ月前に公演会場の下見を行い、搬入経路や児童の入退場経路、当日のタイムスケジュールや準備物などを、担当の先生と詳細に打合せます。以上のことは、当事業の担当者2名が舞台監督と連携しながら一貫して行います。</p>
--	--

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

劇団うりんこ

】

<p>C区分で事業を実施するに当たっての工夫</p>	<p>① 離島・へき地等における公演実績 令和元年度 「ともだちやーあいつもともだちー」2公演 「小学校宇宙ステーション」1公演 令和2年度 「ともだちやーあいつもともだちー」1公演 「海彦と山彦」6公演 「なんちゃってヒーロー」1公演 令和3年度 「きみがしらないひみつの三人」3公演 令和4年度「ともだちやーあいつもともだちー」2公演</p> <p>② 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫 【特殊な事情がある地域での実施にあたっての工夫】 ・演目「ともだちやーあいつもともだち」は3人の俳優が9役を演じる作品です。複数の役を俳優が演じ分ける演出は、演劇の魅力を伝える一つの要素でもあります。 ・ワゴン車一台に積載できる量の舞台装置等であり、様々な移動・道具運搬に対応することができます。また、少量かつ軽量でありながら充分な見ごたえのある舞台装置は、鑑賞の効果を高めるものです。 ・舞台設営と演技に必要なスペースは、ある程度変更(縮小)可能であり、会場条件に合わせて工夫することができます。</p> <p>【公演及びワークショップの質を保つための工夫】 ・小規模会場公演を目的として制作した演目です。少人数で巡演可能なように舞台美術、演出を工夫し制作してあります。 ・公演、ワークショップ共に小規模な公演であることでの特別な変更は行いません。小規模な公演であるからこそ、より安全に、より見やすく、ゆとりを持った環境での上演が可能だと考えます。 ・ワークショップは、公演当日の午前中に行うことが可能です。また、事前に行うことも可能です。 ・公演当日にワークショップを行う場合は、指導者1名と出演者で行います。また、ワークショップ指導者は 舞台スタッフを兼任します。事前にワークショップを行う場合は、主指導者1名と補助者1名(計2名)で行います。</p> <p>③ C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫 【経費削減の工夫】 ・移動や運搬が困難な地域に対して、ワークショップと本公演を同日に開催することで派遣費を削減します。 ・経験豊富な出演者を少人数派遣することで、旅費等を削減しつつ質の高い公演の実施が可能になります。 ・舞台セットは、組み立て式の大木や幕等を利用し、舞台美術の質を保ちながら一台の車両(キャラバン)に積載できるよう工夫しており、運搬費用を抑えることが可能です。</p>
----------------------------	---